

いのちを守る福祉・防災都市東京へ！都政に憲法を！

都民がつくる革新都政

2018年9月15日
発行 = 革新都政をつくる会
発行人・中山 伸
〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10
東京労働会館 5F 電話 (5978) 4031
ホームページ: http://kakushintosei.org/
E-mail: info@kakushintosei.org
(1部25円、送料は別途)

許されない！土壌汚染そのままの・業者の願い無視 豊洲新市場「認可」



これでいいのか豊洲新市場移転、食の安全・安心を考える学習会＝2018. 8. 28・飯田橋

食の安全・安心、築地を守れ！

小池百合子都知事は7月31日、高濃度の汚染が残りの都の汚染対策が失敗したままの豊洲新市場を「安全・安心な市場」と表明し翌8月1日、開場にむけて農林水産相に認可申請。市場業者の合意も得ないまま、10月11日に豊洲新市場開場強行をめざしています。

そして、一方的な表明と認可申請にもつき農林水産省は9月10日、豊洲新市場の開場を認可し、都中央卸売市場の村松明典市場長に斎藤健農水相の認可書を交付しました。業者の願いと食の安全・安心への不安の声を無視した暴挙に激しい怒りの声があがっています。

マスコミの世論調査(8月1日朝日新聞など)でも、豊洲新市場への不安の声は根強く、小池知事の「安全宣言」は、非科学的であり「都民・業者不在」です。「豊洲安全宣言」と開場強行、食の安全・安心を仲卸業者らの質問にもまともにも答えず、10月移転を強行は極めて乱暴。築地市場を絶対壊してはいけない」と訴えました。

講演した中澤誠・全労連東京中央市場労働組合委員長は「豊洲新市場には、交通が不便、床の耐荷重不足など問題が山積している。仲卸業者らの質問にもまともにも答えず、10月移転を強行は極めて乱暴。築地市場を絶対壊してはいけない」と訴えました。

本間慎・東京農工大名誉教授、フエリス女学院大学元学長は「環境基準の4万3000倍のベンゼンが検出された現実を直視するならば、移転中止を求めるとの科学者の取るべき態度だ」と、移転を承認したとの専門家を批判しました。

参加者から相次ぎ発言。築地仲卸業者をつくる「築地女将(おかみ)さん会」の山口タイ会長は「豊洲はうそと隠れいとごまかしでできた市場。どんなことがあっても築地を守りたい」と語りました。

池上幸江・大妻女子大学名誉教授、宇都宮健児・日弁連元会長、あぜ上三和子都議会議員・日本共産党も発言し、豊洲新市場の問題点が浮き彫りになりました。

第三者の安全検証必要 日本科学者会議が要望

日本科学者会議東京支部は9月6日、小池百合子都知事あてに「豊洲新市場予定の土壌・地下水汚染の徹底的な科学的究明は、都民の食生活の安全性を守るうえで不可欠で、不安を残したままでの豊洲市場への移転の中止を求める」要望を出し、第三者による安全性の検証や情報公開などを東京都に求め、科学者会議東京支部代表幹事、薬学博士・池上幸江大妻女子大学名誉教授、農学博士・多羅尾光徳東京農工大学准教授が参加しました。

防災の要はコミュニティ

東京改造と防災まちづくり

2018関東大震災メモリアルシンポジウム

関東大震災から95年。いま、日本列島は地震の「再活動期」に入り、阪神淡路大震災・新潟中越地震・東日本大震災、そして熊本地震と四半世紀のうちに震度7規模の地震が相次いで発生しました。2018年の関東大震災を振り返るシンポジウムを開催する。2018年の関東大震災を振り返るシンポジウム



2018関東大震災メモリアルシンポジウム＝2018. 9. 8・大塚

岩見氏は、「災害復興にあたって、誰の利益を優先させるか」によって都市改造のあり方が決まる。「危険な羽田増便一都心ルー」に「液化化連鎖災害が怖い臨海部」「高層化が高まる災害リスク」「大深度地下」想定外の危険も「災害リスクを高める東京大改造」空、海、地上、地下が危ない。東京都の防災まちづくり政策は、道路整備・都市再開発優先の不燃化特区であり、最重視されるべき

都議会第3回定例会開会日「都庁行動」

都議会第3回定例会が9月19日から開催。いのちとくらしを守る要求の実現する都政へ！声を届けよう！！

◆9月19日(水)

8:00～9:00 都庁前早朝宣伝《革新都政をつくる会》
12:10～12:45 都庁前昼行動《都庁第一庁舎前》
主催：都民連、東京社保協、東京地評

* 青い空 *

8月に急逝した翁長沖繩県知事の遺志ともいえる「提言」がある。都道府県知事が組織する全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」だ。驚いたことに日米地位協定の抜本的見直しや基地の整理・縮小・返還などが全会一致で決議されている▼「提言」は2年前の翁長知事による「基地問題は一部自治体の問題ではない」という発言から始まり調査・研究を経てまとめられた。翁長氏は「沖縄には魂の飢餓感がある」「沖縄が日本に甘えておるのか、日本が沖縄に甘えておるのか」と言葉を残した。絞り出すその声の日頃から安全保障は国の専管事項と逃げ回る知事の面々を、日米地位協定の抜本的見直しへといざなったのかもしれない▼「提言」の意義を認める言もあるが謝花沖繩県副知事はそれを「憲政史上初」と日本の政治史に位置づけた。地方自治は三種分立に加えたもうひとつの民主主義で、それまで天皇が任命していた都道府県知事を公選にした。その知事を動かした翁長氏が遺した「提言」は重いものなのだ▼翁長氏は辺野古基地建設を強行する傲慢な安倍政権の政治の墮落を憂え、命を賭して「日本に地方自治や民主主義はあるのか」と国民に問うていた。30日投票の政治戦には覚悟して臨みたい。(駒)

